

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201883		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家		
所在地	札幌市東区北11条東3丁目1-10		
自己評価作成日	平成24年11月12日	評価結果市町村受理日	平成25年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kajgokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201883-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の個人記録(総合シート)を活用しながら、アセスメントを3ヶ月おきに行っており入居者様一人ひとりのニーズの把握、詳細な状態把握に努めている。また、在宅生活に近い環境作りを目指して、ゆつくりと寛げる空間や定期的な外出できる環境、夕食や日帰り温泉・買い物・散歩等を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、複数の福祉施設を有する運営法人がグループホームとして最初に開設して6年が経過しています。玄関には利用者全員の表札が掲げられ、地域の一人として暮らしています。地域の方々の深い理解と支援の下、地元の神社祭では、利用者の健康を願ってホーム前で子供神輿の披露があります。管理者は1階の共用スペースを地域のサロンにしたいと検討をしています。家族は心身に寄り添って利用者や家族を支援している職員に感謝の意を表しています。職員の育成に力を注いでいる運営法人の趣旨に応え、職員は知識や技術の習得に励み、より一層の質の向上を目指している「グループホームハートの家」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各フロアーに提示し理念の共有に努めている。また、管理者と職員は定期的なミーティングにより理念に基づき、実施に向け日々（地域密着）サービスを検討している。	地域密着型サービスの意義を基本とした法人理念を職員は理解し、共有のものとしています。職員は、理念に基づいたケアサービスに努めています。	法人理念に加え、サービスの質の確保に繋がる根本的な考え方や地域密着型サービスとしての役割が反映された、ホーム独自の理念作成に向け、職員全員で検討されることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春から秋にかけて地域の街路樹の水やりを行い、ホーム内の敷地でバーベキューや敬老会等のイベントには誘いかけをしております。	地域との関係を重視しており、相互の行事で活発な交流があります。近隣の幼稚園のバザーや運動会見学、高校生の実習やボランティア受け入れ、ホームへの子供神輿披露等を利用者は楽しみにしています。地域の方々にはホームからの除雪支援を伝えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度開催している運営推進会議にて認知症の理解や支援方法を伝えています。地域の行事（お祭りなど）にも参加させて頂き、身近に感じて頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、地域の方や御家族様にも出席頂き要望や意見を伺い（外出レクの内容や避難訓練など）のお話を頂き、サービス向上につなげている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、ホームの現状報告に加え各メンバーからの情報提供、防災対策、ホームへの理解に繋がる介護などについて話し合っています。この結果助言による桜見物が実現しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様の転倒骨折等の事故があった場合、札幌市への報告を行い、再発防止に努めている。	行政とは管理者会議、事故報告や年に2回の自己評価表提出、介護認定時の情報提供、実地指導等で行き来する機会があり、ホームの質の向上に活かしています。行政からの依頼で大学の実習生を受け入れています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束、虐待防止委員会を設置しており、委員会で話し合われた内容を定期的に行う、ミーティングで全職員に伝え防止の徹底に努めている。	マニュアルを整備し、身体拘束をしないケアに努めています。法人主催の身体拘束防止に関する委員会に参加した職員の報告会で、禁止の対象となる具体的な行為と弊害についてより一層の理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業に関しては管理者会議や研修の中で学ぶ機会を持っており、現在は日常生活自立支援事業を活用している入居者様が1名、成年後見制度を1名おります。職員にも活用している制度の内容を学び理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約や改定の際は必ず御家族様に説明を行い、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内（玄関）に意見箱を設置している。外部の機関に相談できるよう玄関にも掲示、契約書にも相談の手引きを記載している。	毎月、ホーム便りと個別の利用者の様子を送付しています。家族の来訪時や電話等で詳細な報告をする機会を捉えて要望を傾聴しています。利用者は職員に意見や提案を率直に伝え、居間の環境整備の実現につながっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜職員からの意見や提案を聴く機会を設けており、その意見等について管理者会議にて経営者に伝えている。	運営法人の責任者は毎日ホームを訪れ実情を把握しています。管理者は職員の個性ややる気等の把握に努めると共に、要望や意見等を提案しやすい雰囲気作りに努めています。提案により居室に手摺りを設置しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の調整、正規職員の登用や研修への参加など就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や役職に応じての法人内外の研修を定期的に提供している。働きながら資格取得できる、研修参加できるようにシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市の事業所の見学を受け入れ、交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず御本人様とお会いして、要望や不安な事をゆっくりと聴いており、不安な事が軽減できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談から御家族様とは何度かお会いして要望や不安な事を聴く機会を設けて不安の軽減に努めている。また、センター方式の基本表を入居前にお渡しして御家族様に記載をして頂き、関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族様と相談の上、必要な場合は福祉用具の検討や社会福祉協議会で行っている金銭管理サービスの利用等も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何をどこまで出来るのか、何が得意なのかを職員も一緒に作業等を行いながら個々に合ったサービス内容を検討している。特に、食事の準備（野菜切り）のお手伝い、食事後の片付けを職員と一緒に楽しんで行ってくれている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの作成の際には御家族様の意見を伺ったり、来訪時にご本人の現在の状態や日々の様子を伝えており、時には相談もさせて頂いている。また、月1回ハート新聞を作成し本人の近況報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様了解のもと、ご本人様と馴染みのある方（ご友人）の来訪に協力させて頂いている為、ご友人の面会が多い。	友人、知人の訪問を歓迎し、お茶等を用意するなど居心地の良い雰囲気作りに努めています。馴染みの美容室や商店及び懐かしい場所へは同行支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間のトラブルを未然に防げるような環境作り、トラブルが発生した際には、職員が仲裁して自然に関係が修復できる様に支援している。また定期的に座席等の配置換えや環境整備をして気分転換も出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、御家族様へ手紙や連絡を取らせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月おきにアセスメントを行い、把握に努めている。	利用者の思いや意向は、日々の関わりの中で把握しています。また、生活歴や家族からの情報、個人記録を参考に利用者が安心して暮らせる生活支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用(3ヶ月ごとに見直し)、フェイスシートの更新により経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々に合わせた過ごし方の中で日々変化する心身の状態を見逃さないように日誌や申し送りノートを作成、活用をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様や御家族様の意見を重視して必要であれば担当医にも相談や助言を頂いている。	利用者にとってより良い介護計画を立案するために利用者、家族の意向を最優先すると共に、日々の記録や医療関係者の意見を踏まえ、全職員で協議しています。介護記録に計画の実行をチェックしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に総合シート(検討内容等)があり、サービスの実施内容が記載する欄もあるため、これを基に介護計画のモニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅生活の延長、家庭的な雰囲気を大切にしているため、発想豊かにケアを展開している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの区民センターで催されているコンサート等の参加できるように調整をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族様の意見、希望に応じてかかりつけ医を選定し適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医への受診を希望する利用者、家族の思いに応え、職員が同行支援しています。緊急時は家族も同行し情報を共有しています。月2回、内科と歯科の協力医の往診があり、適切な健康管理が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に特変（発熱等）があった際はかかりつけの病院へ連絡したり、受診や往診時（定期的）に相談して情報の共有、担当看護師と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、介護添書等の情報提供を行うと共に病院からも状況、経過報告を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族様やご本人様に説明をさせて頂いているが、入居されてからも話し合いする機会を設けている。また、マニュアル作成も行っている。	看取りのマニュアルを備え、契約時には重篤時におけるホームの対応を説明しています。勉強会で知識や技術の習得に励んでおり、看取りに近い経験もあることから、条件が整えば看取り支援も可能な状況となっています。	ホームとして出来ることと出来ないことを明確化し、対応指針や意思確認書の整備、さらに医療連携体制加算も視野に入れた取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や応急処置に対応できるように、内外研修やホームでも勉強会を行っている。（AEDの使い方の練習を行っている）		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方、地域の消防団の協力のもと連携して避難訓練を実施している。	消防署や地域、消防団の方々の協力の下、日中・夜間・地震想定訓練を年6回実施しています。ホームには災害備蓄品を備えており、町内会にもテント、ブルーシートが用意されています。管理者は地域の福祉施設との連携を行政に相談しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員、入社時に新人教育にコンプライアンスルールの勉強会を行っている。また、入居者様の人格を尊重した言葉使い、声掛けを日々職員同士で意識し、注意している。	利用者の権利と尊厳について職員は理解し、意識を統一しています。トイレや入浴は同性介助を基本とするなど対応には配慮を心掛け、個人情報もプライバシー保護が徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい方は表情を確認しながらの対応や個々に合わせた声掛け、状況により出来る限り本人の意思を大事に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活習慣や暮らしのペースを尊重し起床、就寝時間も個々に合わせている。日中の過ごし方も個々の希望に沿って（趣味活動や買い物等）行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際、皆様お化粧したり、お洒落な洋服を着て出掛けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、下膳、食後の後片付け等を心良く行ってくださる。	野菜切りや後片付けなど利用者の力を発揮して頂き、職員と共に食卓を囲んでいます。週一回のワンプレートでの食事や行事にはお弁当やオードブル方式で楽しんでいます。また、外食や時には駐車場でのお茶会を堪能しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の日誌の中に記録しており、個々の食事、水分量等の状況を担当医に説明している。担当医より検査結果から塩分や食事、水分量の増減などの指示が出る。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の職員により口腔内ケアを行っている。また、定期的な歯科の往診にて口腔内のチェックや処置をして頂いている。(歯科より職員に対して口腔内ケアの指導もある)			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた定期的(時間ごと)なトイレの声掛けや誘導を行っている。全介助の方でも紙おむつは使用していない。	職員は排泄チェック表を参考に、利用者の行動を見極め声掛けや誘導支援を行っており、全員がトイレで排泄しています。また、利用者一人ひとりに適した衛生用品を使用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一定の水分量の確保や食事時の乳製品の摂取、また、適度な運動(体操)、トイレ時に職員が腹部マッサージを行い便秘予防に取り組んでおり、極力下剤服用しないようにしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一週間に4回の入浴日を設定しており、どちらの日にも何時ごろに入浴したいか入居者様に確認させて頂いており、お一人でゆっくりと入れるようにも設定している。	週4回の入浴日を設け時間帯も柔軟に対応しており、週2回以上の入浴支援を行っています。介護度に拘わらず、介護用品や職員の支援により利用者全員が湯船に入っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的に決まったスケジュールはなく、一人ひとりが体調に合わせた休息されている。日中の活動によって夜間眠れない方はいない。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに整理しており、職員が内容を把握できるようにしている。また、変更時は申し送りノート、受診用の記録用紙に記載し確認印を押すようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	街路樹の水やり、定期的な買い物等の外出、食事の準備や後片付けのお手伝いなど個々の力を活かせるような役割を持って頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望にそって定期的な外出レク（買い物や外食など）または、日帰り温泉や景色のきれいな場所へドライブしたりしている。	年間を通じ、ホームの車両で花見やピアノコンサート、ホテルでの食事、温泉などの外出行事を楽しんでいます。希望による個別の外出支援もあり、利用者の気分転換に繋がっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方は、個人で管理されており買い物時に使用して頂いている。管理させて頂いている入居者様に対しては買い物時に職員と一緒に支払いをして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に手紙を出したり、電話されている。自分で電話をかける事が出来ない方は職員と一緒にかけたりと支援させて頂く。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やテーブルに季節の花を飾り四季を感じれるように努めており、また季節や行事などの写真を見える所に飾ることで季節を感じて頂く。（その時々写真を取り替えている）	改造型のホームですが、各所に段差が有るのも身体機能を活かせる環境と捉えています。行事での写真や熱帯魚、利用者の作品、季節に合った飾り物などお茶の間の雰囲気を感じられます。居間は狭い感じがしますが、その分利用者や職員が親密な関係になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階居間に椅子（ソファー）やテーブルを置き、一人で過したり、仲の良い入居者様同士で音楽や談話できるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やお気に入りの物、日用品などを持ち込んで頂き、快適に生活ができるように個々に工夫している。	上段に袋戸棚が付いた押し入れや、ロッカーが備えられた居室には、利用者や家族の思いが反映された家具や調度品、趣味の物が配置され、利用者にとって安心できる場となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示ドアの表札を設置している。また、居室や廊下に手すりの設置、座席の工夫、安全面を考慮し適度な居間のスペース等、安全な環境作りを行っている。			